

I 急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力

1 社会状況

- 人工知能(AI)、ビッグデータ、Internet of Things(IoT)、ロボティクス等の先端技術が産業や社会生活に取り入れられた「Society5.0時代」の到来
- 新型コロナウイルス感染症の世界的拡大など複雑で先行き不透明な「予測困難な時代」

2 学校教育に求められるもの

我が国の学校教育には、子供一人一人が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の担い手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められる。

3 具体的な資質・能力とは

- 「文章の意味を正確に理解する読解力」、「教科固有の見方・考え方を働かせて自分の頭で考えて表現する力」、「対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し新しい解や納得解を生み出す力」、「SDGs(持続可能な開発目標)の理解と実践力」
- 「豊かな情操や規範意識」、「自他の生命尊重」、「自己肯定感・自己有用感」、「他者への思いやり」、「対面でのコミュニケーションを通じて人間関係を築く力」、「困難を乗り越え、物事を成し遂げる力」、「公共の精神」の育成を図るとともに、各教育段階に応じて「体力の向上、健康の確保」を図る

II 日本型学校教育の成果と課題

1 成果

- ① 学校が学習指導のみならず、生活指導や学校給食、課外活動などでも主要な役割を担い、子供一人一人の状況を総合的に把握して教師が指導を行うことで、子供たちの知・徳・体を一体で育む「日本型学校教育」は諸外国から高く評価されている。
- ② 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、再認識された学校の役割「ア)学習機会と学力の保障、イ)全人的な発達・成長の保障、ウ)身体的・健康的な健康の保障(安全・安心につながるができる居場所・セーフティネット)」が明確になった。
- ③ 学校再開後、学級づくりの取組や、感染症対策を講じた学校行事を行うための工夫など、特例的な対応がとれるよう教育課程を柔軟に変更・改善することができた。

2 顕在化した課題

- ① かつて、「上質で均質な労働者の育成が高度経済成長期までの社会の要請」として、学校に求められた。⇒「正解(知識)」の比重が大きくなり、問題発見・解決力の育成という課題が顕在化した。
- ② 「みんなで同じことを、同じように」を過度に要求する面が見られ、学校生活においても「同調圧力」を感じる子供が増加し、画一的・同調主義的な学校文化が顕在化した。

3 今日の学校教育が直面している課題)

- ① 本来であれば家庭や地域でなすべきことまでが学校に委ねられることになり、結果として学校及び教師が担うべき業務の範囲が拡大され、その負担が増大した。
- ② 子供たちが多様化(特別支援教育を受ける児童生徒や外国人児童生徒の増加、貧困、いじめの重大事態や不登校児童生徒数の増加)している。
- ③ 全体的な傾向として、子供たちの学校生活等への満足度や学習意欲が低下している。
- ④ 教師の長時間勤務による疲弊や教員採用率の低下、教師不足が深刻化している。
- ⑤ 学習場面におけるデジタルデバイスの使用が低調であるなど、加速度的に進展する情報化への対応が遅れている。
- ⑥ 少子高齢化、人口減少による学校教育の維持と、その質の保証に向けた取り組みを行っていく必要がある。

III これからの学校教育の姿・指導観

新学習指導要領の確実な実施

GIGA スクール構想の実現

学校における働き方改革

個別最適な学び(「個に応じた指導」(指導の個別化と学習の個性化)を学習者側の視点から整理した概念

それぞれ学びを往還させる

対話的で協働的な学び

指導の個別化

- 全ての子供たちに基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整して粘り強く学習に取り組む態度を育成するために、ICT活用により、学習履歴(スタディ・ログ)や生活指導上のデータ等を蓄積・分析・利活用すること。また、より支援が必要な児童・生徒へのより重点的な指導を行う。
- 子供たち一人一人の特性や学習進度等に応じ、指導方法・教材等の柔軟な提供・設定を行うとともに、子供自らが見通しを立て、学習状況を把握し、自らの学習を調整しながら粘り強く取り組めるようにする。

学習の個性化

- 基礎的・基本的な知識・技能等や、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として、子供たちの興味・関心・キャリア形成の方向性等に寄り、(総合的な学習の時間における)探究において課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う等、教師が子供たち一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供し、子供たちが主体的に学習を最適化できるようにする。
- 教師は子供の実態に応じて、カリキュラム・マネジメントの充実・強化を図るとともに、きめこまかな支援を行う。

協働的な学び

- 集団の中で個が埋没してしまうことがないように、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、子供一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わせられ、よりよい学びを生み出していけるようにする。
- 「協働的な学び」においては、お互いの感性や考え方等に触れ刺激し合うことができるようにする。人間同士のリアルな関係づくりは、教師と子供の関わり合いや子供同士の関わり合い、自分の感覚や行為を通して理解する体験的な活動を通して学ぶことの重要性が今後より一層高まる。